

【スローガン】

ひとのため、まちのために

【はじめに】

今を生きよう。過去にとらわれず、未来を恐れることなく、今を一生懸命生きよう。

【組織改革】

組織とは、同じ理念のもとに集った人の集合体だとすると、組織も人と同じで、人格があります。人が時代や環境によって進化、成長していくように組織もそうあるべきです。青年会議所という組織は40歳までしか在籍できず、また、毎年役職や担いが変わる単年度制であり、常に新陳代謝が行われます。これは、設立の初期より行われており、ある意味強制的な組織改革を促すための仕組みとも言えます。都城青年会議所もそれは同様であり、法人格についても社団法人から公益社団法人、そして一般社団法人へと移行しています。組織というものは人と共に、その時代に即して常に変化をしていく必要があります、そうではない組織は淘汰されていきます。

2021年は、組織改革の年です。都城青年会議所は、この圏域の学び舎として、これまで多くの成果と地域の核となるメンバーを数多く輩出してきました。しかしその一方、疲弊し、消耗するメンバーも生んできたことは否めません。改革にあたっては、法人格が変わるとかそういったことではなく、メンバーがこれまで以上に生き生きと輝けるように、不易流行の精神で、より実務的な改革を実行していきます。具体的な例を挙げると時間の使い方です。例えば各種会議については、既存の運営方法を見直し、効率化できる部分はしながらも、余白を残し、決して質を下げることなく、さらに質の向上を目指していきます。そうして空いた一人ひとりの時間は、家族や仕事、会員同士の交流、自己研鑽など、より有意義な時間に使っていきましょう。また、組織の制度も見直し、男女関係なく活躍できる組織作りを推進していきます。

そして、役員ではないメンバー含め全員が、小さな役割でもいいので、積極的に、自主的に動きましょう。ただ会費だけを払って、何も挑戦せず卒業するのは、この組織にいる意味はありません。

【会員拡大】

なぜ会員拡大を行うのか。理由は様々ありますが、端的に述べると、それはJ Cの使命でもあるJ C I ミッションに書かれています。「より良い変化をもたらす力を青年に与えるた

めに発展・成長の機会を提供すること」であるからです。私たちは、外部向けの事業によって市民の意識を変え、社会にいい影響を与えることも重要です。しかし、対象者の市民が我々の同志になってくれれば、外部への影響力は計り知れないものがあります。つまり、会員拡大こそが最大の意識変革の機会であり、JC活動の根幹となすものなのです。

そして、会員拡大の本質は、自ずと増えていくことが理想ですが、現状はなかなかそうではありません。組織改革をしながら我々の運動の質を上げ、組織の魅力を増し、そして、運動を全員が発信することでこれからの地域を担う同志を増やしていきましょう。

【奉仕】

日本に青年会議所が設立した翌年の1950年、青年会議所の基本理念でもあるJC三信条「個人の修練、社会への奉仕、世界との友情」が、設立当初のスローガンとして掲げられました。この理念は、普遍的で私たち青年会議所の土台となるものです。三信条についての解釈は諸説ありますが、私は、「奉仕」を強調する立場を支持します。これは、奉仕を実践する過程で、修練と友情が達成されるという考えです。

心理学者の巨匠の一人アルフレッド・アドラーは、幸福とは何かを教えます。人は「わたしは誰かの役に立てている」と思えたときにだけ、自らの価値を実感することができる。そこでの貢献は、目に見える形でなくても、誰かの役に立てているという主観的な感覚、つまり「貢献感」があれば構わない。幸福とは「貢献感」である。これと同じように、我々が唱和するJCIクリードにもこのような言葉があります。「That service to humanity is the best work of life.」人類への奉仕が人生最善の仕事である。

【結びに】

私が今この場に立たせてもらう理由は、メンバーと組織への恩返しのためです。私は青年会議所で、皆様に背中を押され、そして支えられてきた中で多くの学びを得ました。これまでに培ってきた経験をもとに、これからのメンバーのため、組織のために挑戦します。

メンバーがさらに生き生きとし、ひとのため、まちのために行動する、そのような一年を創造し、共にこの一年を楽しみましょう。

【基本方針】

- 1、組織改革
- 2、会員拡大